



Red Hat Enterprise Linux の実力

柔軟性、安定性、サポートをお客様に提供

目次

はじめに
オペレーティングシステムの
選択が重要である理由
3 ページ

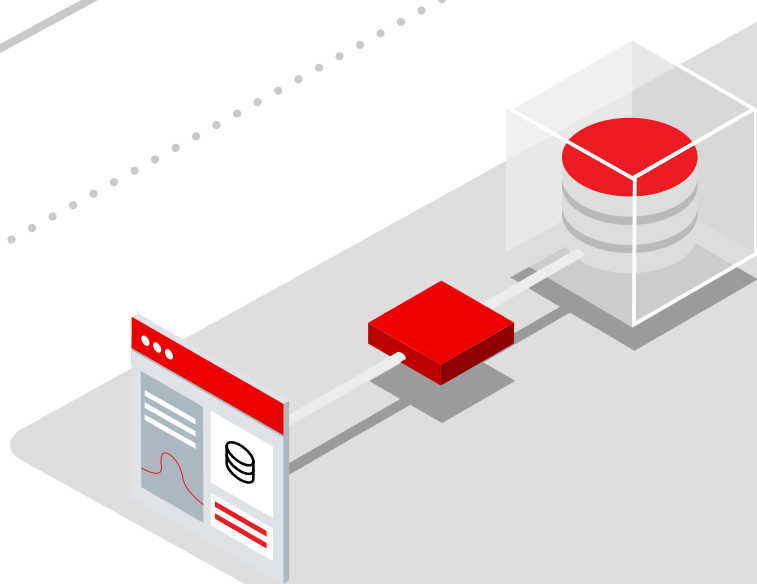
第1章
Red Hat Enterprise
Linux とは
8 ページ

第2章
Red Hat Enterprise Linux
サブスクリプションで提供されるもの
10 ページ

第3章
Red Hat Enterprise Linux
を使い始める
18 ページ

はじめに

オペレーティングシステム の選択が 重要である理由



定義上、オペレーティングシステム (OS) とは、さまざまな業務に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアリソースの管理を担うシステムソフトウェアのことを指します。

構造的には、OS はハードウェアと、チームが効果的かつ効率的に仕事をするために関わる必要のあるさまざまなサービスやアプリケーションの間に位置します。

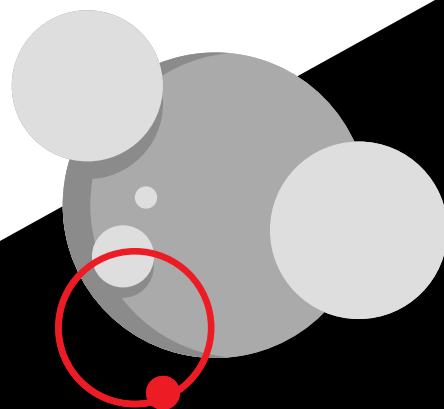
OS は、電源管理、パフォーマンス管理、スレッド化、ロギング、セキュリティなど、アプリケーションが必要とするさまざまなタスクを制御するためにも利用されています。これにより、ユーザーがどこから操作しているかを問わず、アプリケーションとサービスのネットワークが効率的かつ調和的に機能するようになります。

適切な OS で IT インフラストラクチャを統合

各業界のビジネスリーダーは、**柔軟性、適応性、回復力、管理性**を提供できる IT 環境を求めています。

これらの要素を提供できるかどうかを直接左右するのは、全体的な運用環境、そしてなによりも OS です。

組織にとって最も重要な機能を促進する基盤である OS は、物理環境、仮想環境、プライベートクラウド環境、パブリッククラウド環境、ネットワークエッジなどの運用環境全体にわたって標準化を実現し、イノベーションとアジリティを促進して、プロセスの自動化、新システムのデプロイ、アプリケーション・ライフサイクルの管理を可能にできなければなりません。



オープンソース OS とは

組織とその具体的なニーズに適した OS を探している場合、2 種類の OS、それぞれの違い、そしてそれぞれが提供するメリットを理解する必要があります。



クローズドソース OS

クローズドソース OS はプロプライエタリー OS とも呼ばれ、マイクロソフトの Windows や Apple の macOS などがよく知られています。サードパーティがアクセスできない非公開のソースコードで構築されているため、コードの所有者または承認されたパートナーツールによってのみカスタマイズが可能となります。



オープンソース OS

オープンソース OS の代表例は Linux® です。Linux は、適切なスキルセットを持つあらゆるユーザーに、組織のニーズに合わせてソースコードを変更する能力を提供します。Linux には新しいツールやソリューションを作成する開発者コミュニティがあり、Linux ユーザーは誰でもそれを利用できます。

エンタープライズ向けオープンソースソフトウェアの利用増加予測¹

29%

現在

34%

2 年後

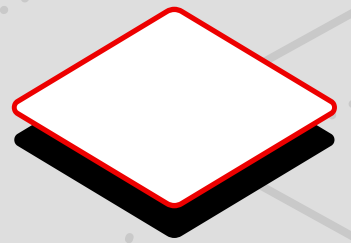
どちらの OS も世界中の企業で広く使われていますが、近年はオープンソースソフトウェア全体の人気が高まっており、プロプライエタリーソフトウェアの人気は年々減少傾向にあります¹。

Red Hat レポート「2022 年エンタープライズ向けオープンソースの現状」では、今後 2 年間で企業のプロプライエタリーソフトウェアの使用率は 45% から 37% に低下する一方、**コミュニティベースのオープンソースの使用率は 21% から 24% に上昇すると予測されています。**¹

オープンソースソフトウェアが人気を集める中、最も注目すべき発展のひとつがエンタープライズ向けオープンソースソフトウェアの台頭です。コミュニティベースのオープンソースと比較した場合、セキュリティや信頼性が著しく高いなど、独自のメリットがあります。

より多くのエンタープライズ向けソフトウェアベンダーが、独自のオープンソース・ソリューションでオープンソース・コミュニティに参入し始めたため、エンタープライズ向けオープンソースソフトウェアの利用率は、今後 2 年間で 29% から 34% に上昇すると予測されています。¹

¹ Red Hat レポート、「エンタープライズ向けオープンソースの現状: Red Hat レポート」、2022 年 2 月 22 日。



オープンソース OS のメリット

オープンソース OS は、クローズドソース OS では実現が困難な 3 つのメリットを提供します。その 3 つとは、多くの組織が業務で欠かせないコスト効率、信頼性、柔軟性です。



コスト効率

商用のオープンソースシステムは、クローズドソースのものよりも安価であることが多く、場合によっては作成者によって完全に無償で提供されることさえあるため、オープンソース OS はクローズドソースのものよりも高いコスト効率を発揮します。



信頼性

オープンソース OS のソースコードは公開されているため、世界中の何千人もの開発者によってレビューされ、ソースコード内に存在するバグや脆弱性はすぐに発見され修正されます。



柔軟性

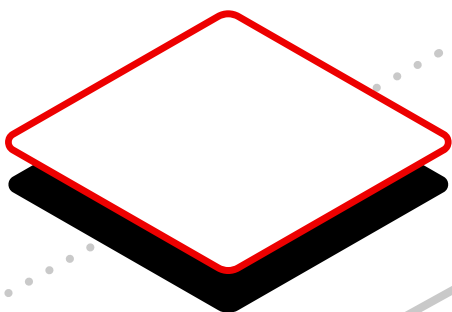
オープンソース OS はソースコードが公開されていて、カスタマイズ可能なため、適切なスキルがあれば OS によって組織が必要とすることを何でも行うことができ、クローズドソース OS では不可能なレベルの柔軟性が実現します。

このような大きなメリットはあるものの、コミュニティベースのオープンソースソフトウェアにも欠点があります。

最も顕著なのは、コミュニティと共同開発され、セキュリティ、コンプライアンス、サードパーティ認証のために企業ソフトウェア開発者やベンダーによって強化されたソリューションではなく、コミュニティソースのソフトウェアを使用するリスクです。

オープンソースソフトウェアの利点を活用しようとしている組織にとって幸いなことに、これらの短所は先進的なエンタープライズ・オープンソース市場が解決します。

エンタープライズ・オープンソース・ソリューションは、テストとパフォーマンスチューニングを通じてエンタープライズ向けソフトウェアプロバイダーによって強化されたオープンソースソフトウェアで構築され、エンタープライズサポートとサービス (通常、プロアクティブなセキュリティチェックとアップデートを含む) によってバックアップされます。



エンタープライズ向けオープンソース・ソリューションのメリット

エンタープライズ向けオープンソースソフトウェアは、企業の IT プラクティスにとって不可欠なものとなりました。IT リーダーの 95% は、エンタープライズ向けオープンソースが組織の全体的なエンタープライズインフラストラクチャにとって重要であると回答しており、また 80% が、新たなテクノロジーに対するエンタープライズ向けオープンソースソフトウェアの使用を増加させると予想しています。¹

これらの組織がエンタープライズ・オープンソース・ソリューションによって実現させている最大のメリットとは何なのでしょう。

IT リーダーが認識したエンタープライズ向けオープンソースソフトウェアのメリットのうち、最も特筆すべきものは、ソフトウェアの質の高さとよりセキュリティの優秀さでした。また、エンタープライズ向けオープンソースの導入を検討している企業にとって、サポート不足が最大の懸念として挙げられることが多いのですが、ほとんどの場合、充実したサポートサービスが提供されます。



高品質なソフトウェア

企業向けオープンソース・ソフトウェアベンダーがソリューションを市場に投入する前に実施する広範なテストとパフォーマンスチューニングによって、高いレベルの品質が達成されるため、コミュニティソース・ソフトウェアにありがちな未知の問題や予期せぬ問題が発生するリスクが低くなります。



セキュリティ

IT リーダーの 89% が、エンタープライズ向けオープンソース・ソリューションのセキュリティは、プロプライエタリー・ソフトウェアのセキュリティと同等かそれ以上であると回答しています。その理由として最も多かったのは、十分に文書化され、スキャン可能なセキュリティパッチが利用可能であること、ベンダーから脆弱性パッチが迅速に提供されること、より多くの人がコードを見ていること、自社のチームがコードを監査できることです。¹



サポート

エンタープライズ向けオープンソース・ソリューションは、ほとんどの場合、電話やオンラインによるインシデントサポート、サポートデータベースやポータル、自動化されたセキュリティツールやアップデートなど、広範なサポートツールやリソースを備えています。この点に関して、IT リーダーがエンタープライズ向けオープンソース・ソフトウェアベンダーを好む理由として挙げた上位の理由の 1 つは、技術的な課題をサポートする有効性でした。¹

Linux がオープンソース OS として選ばれる理由

まず最初に、Linux とは何か？

Linux は、さまざまなディストリビューターによって大規模なパッケージの一部として最も一般的に提供されている OS であり、さまざまな機能やツールが含まれています。

世界で最も人気のあるオープンソース OS² であり、すべての OS の中でも 3 番目に人気のある OS³ である Linux は、先進的で革新的な IT プラクティスを運用する企業、特にソフトウェア開発に重点を置く企業で、長い間愛用されてきました。

最近の調査によると、Linux はソフトウェア開発用 PC OS として 2 番目に人気があり、開発者の 47% が PC OS ディストリビューションとして Linux を使用しています。⁴

クラウドの観点からは、Management Insight Technologies が Red Hat に代わって実施した社内市場調査「2021 Linux Market study」によると、回答者の 49% がクラウドに Linux インスタンスを導入しており、その内訳はパブリッククラウドが 28%、プライベートクラウドが 21% でした。⁵

あらゆる業界や先進テクノロジーに広く導入され続けた Linux は、数十年にわたるテストを通して、今日必要とされている革新的な IT プラクティスをサポートする理想的なプラットフォームであることが証明されています。

先進的ビジネスにおけるその人気の理由は、柔軟性と互換性の高さにあります。

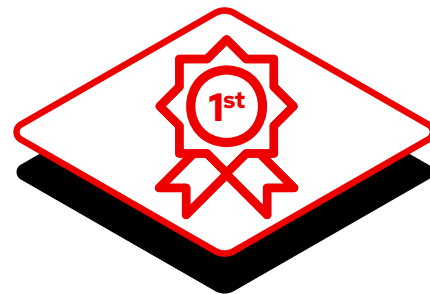
▶ 柔軟性

スイート一式をインストールする必要がなく、必要なコンポーネントだけをインストールすることで、不要なツールやコンポーネントに邪魔されることなく運用できるため、柔軟に運用できます。

▶ 互換性

Linux は、あらゆるファイル形式を実行できるだけでなく、あらゆる種類のコンピューティング環境において、組織の最も重要なワークロードの開発と運用を容易にし、膨大なユースケース、ターゲットシステム、デバイスをサポートします。

この e ブックでは、Linux のような OS の重要性、特に Red Hat® Enterprise Linux プラットフォームが組織にもたらすメリットを探ります。



市場シェアランキング

オープンソース OS²



市場シェアランキング

OS (全体)³

OS が重要な理由について、詳しくはこちらをご覧ください。

e ブックをダウンロード

² 「コンピュータ・オペレーティングシステムの世界市場シェア 2012-2022 年、月別」、Statista、2022 年 8 月 29 日。

³ 「デスクトップ PC のオペレーティングシステム市場シェア 2013-2022 年、月別」、Statista、2022 年 7 月 27 日。

⁴ 「ソフトウェア開発オペレーティングシステムの世界分布 2018-2021 年」、2022 年 2 月 21 日。

⁵ Red Hat e ブック「パブリッククラウドにおける Linux の現状：年次レビュー」、2022 年 8 月 9 日。



第1章：

Red Hat Enterprise Linux とは

世界で最も利用されているエンタープライズ向け Linux プラットフォームの1つ⁶である Red Hat Enterprise Linux は、数百のクラウド環境と数千のソフトウェアベンダーおよびハードウェアベンダーでの使用が認定されています。

さまざまなクラウドやソフトウェア・ソリューションの利用を検討しているあらゆる規模の組織に提供できる互換性に加え、ツールの広範なネットワークへのアクセスにより、今日の組織が必要とする革新的な機能を提供します。また、24 時間体制の専用テクニカルサポートにより、増加する複雑性を管理するために必要なサポートを提供します。

Linux ディストリビューションは、Microsoft Azure、Amazon Web Services (AWS)、Google Cloud、IBM Cloud、Alibaba Cloud など、あらゆる主要なパブリッククラウドプロバイダーを通じて利用できます。また、機能、統合、サポート、パートナーシップもさまざまであるため、組織とそのニーズに適したディストリビューションを選択することが不可欠です。

それでは、コスト効率の高いソリューションでリソースを最適化したいと考える、先進的な IT プラクティスを運用するあらゆる規模の組織が直面する最も一般的な課題に、Red Hat Enterprise Linux はどのように対処しているでしょうか？

⁶ 「2022年オープンソースの現状レポート」、OpenLogic、2022年11月。

先進的な OS プラットフォームで 先進的な課題に取り組む

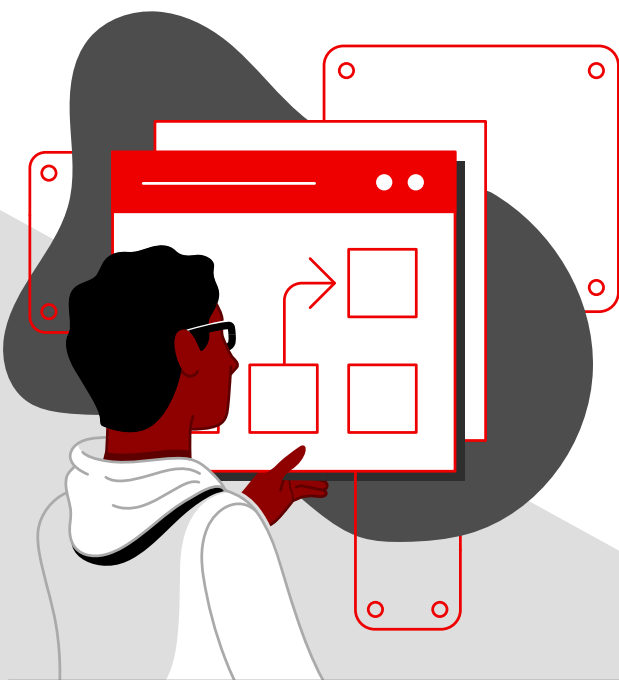
組織が直面する最大の課題の1つとして、複雑化する先進的な IT プラクティスを管理するために必要な一貫性と効率性を IT 環境全体で提供する OS を見つけることが挙げられます。

Red Hat Enterprise Linux は物理、仮想、プライベートおよびパブリッククラウド環境、エッジデプロイメントなど、IT 環境とそのさまざまなインフラストラクチャに一貫性をもたらし、場所を問わず同じツールでアプリケーション、ワークロード、およびサービスを管理できるようにします。

先進的な IT プラクティスを運用する組織が直面する一般的な課題には他にも、より安全で信頼性の高い IT 環境を構築する必要性や、重要なビジネスワークロードの価値実現までの時間を短縮する必要性などがあります。

これらの課題は、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの組み込みツールとサポートによって直接対処できます。

IDC の独立調査によると、Red Hat Enterprise Linux を使用しているお客様は、無料のオープンソース・ソリューションを使用している組織と比較して、多くの運用改善を達成しています。⁷



信頼性とセキュリティを重視した IT 環境



72%

予定外のダウンタイムを短縮⁷

一貫性と効率性



32%

IT インフラストラクチャ・チームの効率が向上⁷

運用コストの低減

**17.2 万
ドル**

組織あたりの年間クラウド・インフラストラクチャ・コストの削減額⁷

価値実現までの時間を短縮



23%

新しいアプリケーションの開発ライフサイクルが迅速化⁷



20%

開発チームの生産性が向上⁷

Red Hat Enterprise Linux を使用してビジネス活動をサポートすることで、収益の増加とリソースの最適化が実現し、顧客に 1 兆 7000 億ドルの利益がもたらされる理由をご覧ください。

[IDC ホワイトペーパーを読む](#)

⁷ IDC ホワイトペーパー (Red Hat 後援) 「無料版と比較したレッドハットソリューションのビジネス価値」、Document #US50423523、2023 年 3 月。

第 2 章：

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションで提供されるもの

適切な OS を見つけるという課題に取り組む際には (特に先進的な IT プラクティスを管理するために必要な一貫性と効率性を提供する OS を探すことが重要)、Linux OS が提供できる広範なメリットに加えて、Linux OS を適切に管理するための適切なツールとサポートも必要であることに注意しなければなりません。

Red Hat Enterprise Linux では、サブスクリプションの一部としてこれらのツールとサポートが提供されるため、技術チームはこれらのニーズを管理する負担を負うことなく、自由にイノベーションを続けることができます。

Red Hat Enterprise Linux が提供するもの：



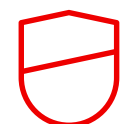
IT 環境全体の柔軟性と制御性



最新の Linux イノベーションへのアクセス



場所を問わずサポートされたデプロイ



エンタープライズグレードのサポートとセキュリティ機能



Red Hat 認定パートナーエコシステムの最新イノベーションへのアクセス



新しいテクノロジーへの可視性

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの内容については、詳細ガイドをご覧ください。

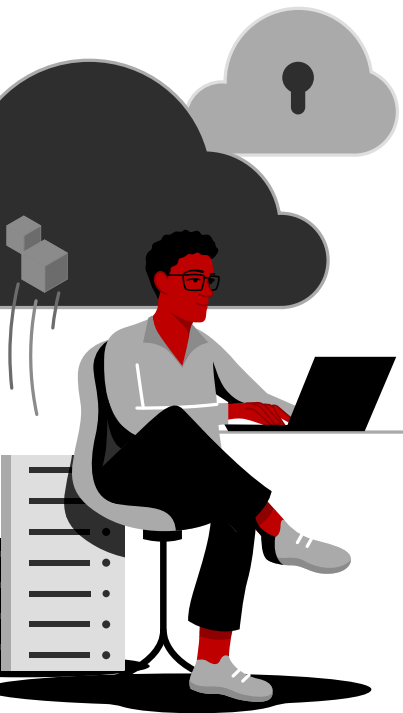
[詳細はこちら](#)



IT 環境、バージョン、コストの柔軟性と制御

どの組織にも独自のニーズや要件があり、サポートやコストの制約を超えることなくそのニーズを満たすために IT 環境をカスタマイズする能力が必要とされています。

Red Hat Enterprise Linux のサブスクリプションは、以下を通して、求められるレベルの柔軟性を提供します。



IT 環境間での可搬性

サブスクリプションは特定のインストール場所、クラウドプロバイダー、ハードウェアに縛られないため、物理、仮想、クラウド、エッジシステムの幅広い選択肢に適用し、組織固有のニーズや要件に合わせて必要に応じて移動させることができます。



保守されているすべてのバージョンのサポート

サブスクリプションでは、Red Hat Enterprise Linux のアクティブに保守されているすべてのバージョンへのアクセスとサポートが提供されるため、組織固有のニーズを満たすスケジュールに従ってアップグレードを管理でき、最大 10 年間のサポートが保証されるメジャーリリースで標準化できます。



管理の向上と柔軟なコスト

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションにより IT コストは資本コスト (CapEx) ではなく運用コスト (OpEx) になるので、支出をより迅速にコントロールできます。また、カスタマイズ可能なさまざまなレベルのサポートにより、コストの範囲を細かく管理し、納得のいく予算で組織のニーズに対応することができます。Red Hat はまた、クラウドプロバイダーと連携して、共同顧客に便利な購入オプションを提供しています。お客様ご自身のサブスクリプションを利用することも、従量課金制による支払い (オンデマンド) も、クラウドプロバイダーへの確約利用料を使用することも可能です。また、Red Hat と直接連携して、特定のニーズに合わせたカスタムプランを構築することもできます。

最新の Linux イノベーションへのアクセス

Red Hat Enterprise Linux のサブスクリプションを利用すると、最新のエンタープライズ対応 Linux イノベーションにアクセスできます。これらはすべて、Red Hat Smart Management、Red Hat Ansible® Automation Platform、Red Hat OpenShift® など、ソフトウェア、自動化、管理テクノロジーの幅広い Red Hat ポートフォリオとの併用が認定されています。

しかし、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションのメリットは、革新的な製品群を利用できることだけではありません。

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションは、すべての Red Hat ポートフォリオを構築する基盤として、特定のサポートレベル、ライフサイクルの更新とメンテナンス、Red Hat Enterprise Linux ロードマップの可視性、アップグレード、パッチ適用、自動化、環境分析用のツールを提供できるようにパッケージ化されています。これらの詳細については、次のセクションで詳しく説明します。



データセンターからエッジまであらゆる場所へのデプロイをサポート

クラウドの利用が年々増加し続け、よりソースに近いコンピュートリソースを必要とする企業にとってエッジデプロイメントが欠かせないものになるなど、ワークロードのデプロイ先が多様化し続ける今、Red Hat の認定パートナーエコシステムを通じてサポートできるユースケースの範囲はますます重要になっています。

クラウド戦略を IT 資産に組み込む際、各組織には独自の要件があることを Red Hat は理解しています。そのため、Red Hat Enterprise Linux は極めて優れた柔軟性を提供し、クラウド移行のどの段階にあってもニーズを満たす、一貫して安定した環境を実現します。

Red Hat Enterprise Linux は、Microsoft Azure、AWS、Google Cloud Platform、IBM Cloud、Alibaba Cloud など、何百ものクラウドパートナーでの使用が認定されています。Red Hat は、クラウドでの使用に最適化された共同開発の機能とともに、パブリック、プライベート、ハイブリッド、マルチクラウドの各環境において一貫性がありながらも柔軟なエクスペリエンスを提供します。

エッジデプロイメントがますます人気を集める今、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションがどのように企業をサポートできるか詳しく見ていきましょう。

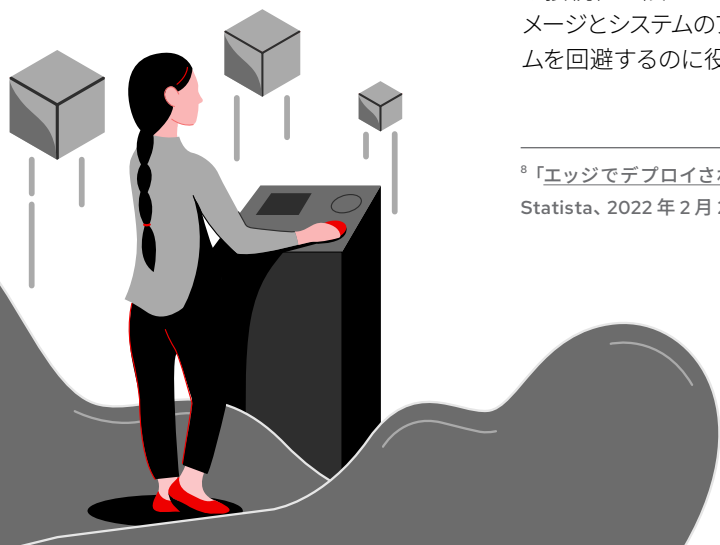
企業をエッジへと導く

2023 年までに、新しい企業 IT インフラストラクチャの半分以上が、一元化されたデータセンターではなくエッジにデプロイされると予測されています。⁸ より多くの企業がエッジデプロイメントに目を向け始める中、エッジデプロイメントのサポートはますます重要性を増しています。

Red Hat Enterprise Linux は、小規模なインフラストラクチャ環境でのエッジデプロイメントに理想的な基盤を提供します。また、従来のコンテナ化されたワークロードのデータセンターからエッジロケーションへの移動を促進するために必要な、インフラストラクチャ間の一貫性、ワークロードの可搬性、最適化された運用を実現します。

また、Red Hat Enterprise Linux は、あらゆるタイプのリモートサイトで実行される多様なワークロードをサポートする、エッジ向けに最適化されたカスタム OS イメージ、帯域幅や接続性が限られた環境下で運用の中断を最小限に抑えるために必要な信頼性の高いイメージとシステムのアップデート、多数のデバイスとロケーションを管理する際にダウンタイムを回避するのに役立つインテリジェントなロールバックを提供します。

⁸ 「エッジでデプロイされるグローバル企業の IT インフラストラクチャのシェア 2019 年および 2023 年」、Statista、2022 年 2 月 21 日。

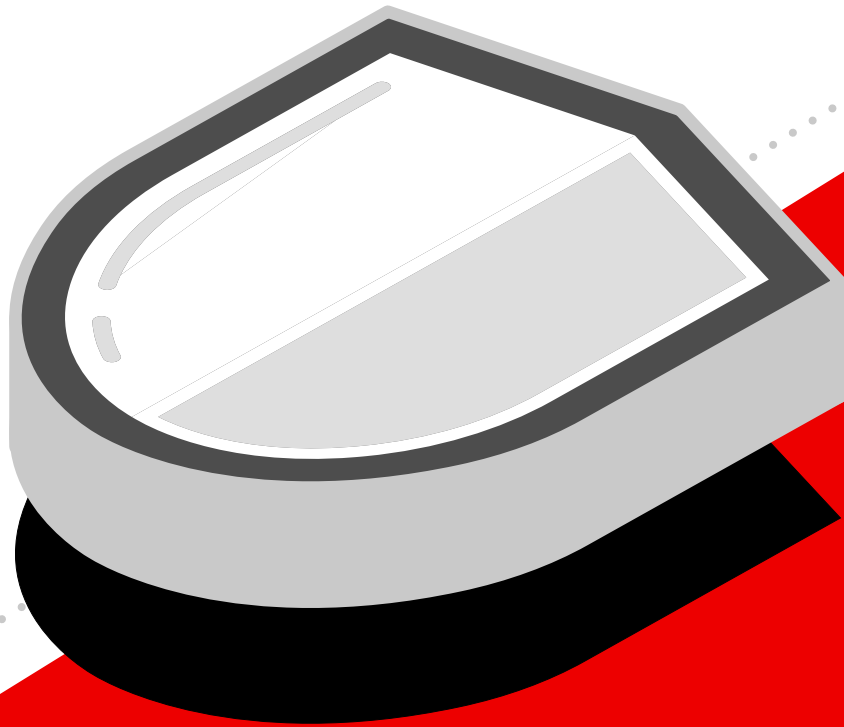




ベストプラクティスを超えるエンタープライズグレードのサポートとセキュリティ

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションは、電話およびオンラインでのインシデントサポートを提供しています。先進的で革新的な IT プラクティスに必要な、複雑な IT 環境において、このサポートはお客様の組織に安心をもたらします。

サポートやベストプラクティスのアドバイス以上のものを必要とする組織は、Red Hat のカスタマーポータルを利用できます。このポータルでは、現在のセキュリティ脆弱性の情報や、影響を軽減するための重要な対策、さらにリファレンスアーキテクチャ、ドキュメント、動画、Red Hat エキスパートとの共同のディスカッションを含む広範なデータベースを利用できます。



「Red Hat は、通常優れたサポートを見つけるのが難しい領域で、卓越したサポートを提供しています。…テクニカルサポートは、弊社が利用している多くのベンダーよりも優れており、しっかりと問題に取り組んでくれます。仕事のできないサポート担当者に出くわすことはめったになく、問題を他の担当者にエスカレーションするのもそれほど時間はかかりません。100 のケースのうち、私はおそらく 3 回エスカレーションした程度でしょう。サポートの評価は 10 点満点中 10 点と言えます」

Erik Windholm 氏
運輸会社のシニアエンタープライズエンジニア⁹

⁹ Erik Windholm 氏「Erik Windholm's unbiased review of Red Hat Enterprise Linux」、Peerspot、2022 年 6 月 30 日にアクセス。

Red Hat Enterprise Linux が、効率的で信頼性が高く、セキュリティ重視の IT 環境を組織で運用するために必要なサポートとセキュリティを提供するその他の方法



マルチレベルのセキュリティとコンプライアンスの単純化

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを通じて、脅威からのマルチレベルの保護、柔軟なセキュリティツール、コンプライアンスを維持するためのシンプルな方法を組織に提供できます。

これは、組織の継続的なコンプライアンス確保を支援するスキャンおよび修復ツール、新しいリソースへの継続的なアクセスに加え、自動化されたセキュリティツール、定期的なアップデートとパッチリリース、アクセス可能なセキュリティ・インテリジェンスと専門知識を通じて達成され、組織のセキュリティへの取り組みを向上させます。

そして最後に、厳しいセキュリティ基準に対する認証により、セキュリティやコンプライアンス要件を損なうことなくあらゆる業種や状況で Red Hat Enterprise Linux を使用できるようになります。



修復、管理、自動化を備えた統合された分析機能

Red Hat Insights は、すべての有効な Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれる Software-as-a-Service です。環境全体の分析をプロアクティブに収集し、IT 環境のあらゆる側面の可用性、パフォーマンス、安定性に直接影響を及ぼす可能性のあるセキュリティの脅威、ボトルネック、構成ミスを特定できます。

また、Red Hat Enterprise Linux は、Red Hat Satellite や Red Hat Ansible Automation Platform など、他の Red Hat 管理および自動化ツールとの統合が可能なので、組織は運用のあらゆる面で効率化を達成できます。





リソースの最適化

Red Hat Insights Resource Optimization は、パブリッククラウド、ハイブリッドクラウド、オンプレミスで稼働する Red Hat 製品を分析するための単一の一貫したサービスを提供します。プラットフォームとアプリケーションを分析して問題を予測し、アクションを推奨し、コストを追跡することで、ワークロードの可視性を高めて管理できるようにします。

特定のユースケースに適切なサイズのパブリッククラウド・システムを推奨することで、Red Hat Enterprise Linux のお客様がパブリッククラウドへの支出に対する知見と制御を得られるように設計されています。

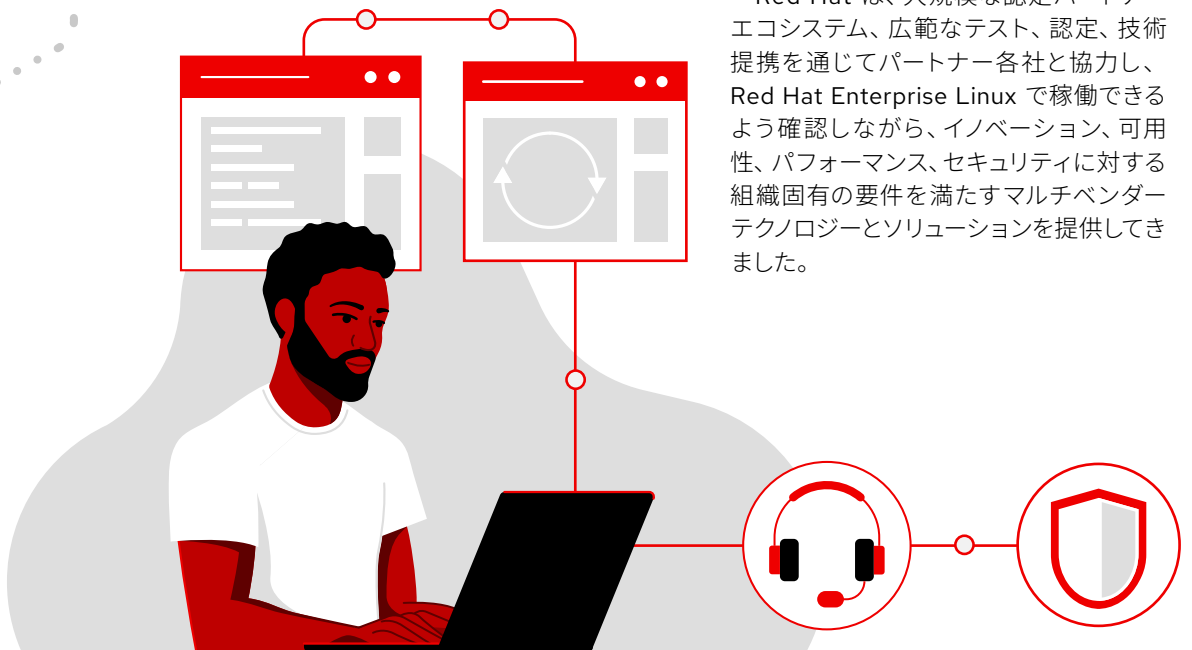


あらゆる IT 環境に対応する認定パートナーエコシステム

Red Hat は、業界をリードするハードウェアベンダー、ソフトウェアベンダー、クラウドベンダーすべてと緊密なパートナーシップを育んできました。Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションにより、これらのパートナーシップがもたらす、IT 環境のイノベーションと安定性を確保するために必要な柔軟な選択肢を利用できます。

この認定パートナーエコシステムは、信頼できるソフトウェア・サプライチェーンを通じて、お客様の組織にアーキテクチャやバージョンの幅広い選択肢を提供します。これらはすべて Red Hat 製品での使用が認定されており、IT 環境全体で相互運用性を備えているため、製品間の統合による IT 環境を構築することができます。

Red Hat は、大規模な認定パートナーエコシステム、広範なテスト、認定、技術提携を通じてパートナー各社と協力し、Red Hat Enterprise Linux で稼働できるよう確認しながら、イノベーション、可用性、パフォーマンス、セキュリティに対する組織固有の要件を満たすマルチベンダーテクノロジーとソリューションを提供してきました。





新しいテクノロジーへの可視性に基づいて IT ロードマップを計画

先を見通す力のある企業の多くは、新しいテクノロジーとそれが自社の業務にどのような影響を及ぼすかを可視化することを極めて重要視しています。

その実践として特に一般的なのは、その可視性を利用してどのテクノロジーが組織のニーズに最も適しているかを優先順位付けし、それらのテクノロジーの導入を計画する IT ロードマップを策定することなどです。

お客様にとって重要な先進的なテクノロジーを特定し、間もなく登場する新機能を通知する Red Hat のプロアクティブな取り組みにより、お客様は Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを通じて高度な可視性を得られます。



これにより、Red Hat Enterprise Linux のお客様は、Red Hat が将来の IT ニーズを満たすエンタープライズ対応アプリケーションにこれらのテクノロジーを開発するのを待つ間、前もって IT ロードマップを正確に計画することができます。

このレベルの可視性を得るだけでなく、今後登場する新しいアプリケーションや機能の開発に直接影響を与えることもできます。

Red Hat とお客様の関係は本質的にコラボレーティブなものであり、そこにはお客様のニーズについて学び、評価し、将来の開発に組み込むという使命が含まれています。



そのため、お客様は将来のアプリケーションや機能をあらかじめ計画することができ、その開発方法に直接影響を与えることもできます。

Red Hat には広範な顧客ネットワークがあるので、Red Hat 製品の改良は業界の垣根を越えた多くのお客様とのコラボレーションを通じて開発されており、それらを活用できるというメリットもあります。

これにより、他の企業が毎年プロセスのモダナイズを続ける中でも、テクノロジーの進歩において競争力を維持することができます。

Red Hat Enterprise Linux を使用して、7 つの主な運用領域で価値とメリットを実現する方法について説明します。

e ブックをダウンロードする



第 3 章：

Red Hat Enterprise Linux を使い始める

先進的な IT プラクティスを運用するためには、一貫性と信頼性の高い、セキュリティ重視のインテリジェントな OS が必要です。Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを通じて、それを作成するために必要なさまざまなツール、セキュリティ機能、およびサポートリソースにアクセスできます。

これには以下が含まれます。



IT 環境全体の柔軟性と
制御性



最新の Linux イノベーションへの
アクセス



場所を問わずサポートされた
デプロイ



エンタープライズグレードの
サポートとセキュリティ機能



Red Hat 認定パートナーエコシステムの
イノベーションへのアクセス



新しいテクノロジーへの
可視性



Red Hat Enterprise Linux と、その強力な
機能とメリットの詳細については、
redhat.com/rhel をご覧ください。

利用を開始する

Red Hat Enterprise Linux の 60 日間トライアル
を今すぐお試しください。